

「超スマート社会」の実現には、

新奇なアイデアを発掘し、先端技術に育て、試しながら

社会に実装して行かなければなりません。

この「試しながら」とは、失敗しても何度でもチャレンジできる社会の仕組みで

日本社会は未成熟ですが先端技術の社会実装には必要不可欠です。

そこで、神戸大学は実証や実験を推奨する神戸市を舞台に

「先端技術を社会実装し起業する大学」 「何度でもチャレンジするチャンスがある街」

を産学連携で実現すべく「知の創造から社会実装まで」を担う

学術・産業イノベーション創造本部を設置し事業として取組みます。

本シンポジウムでは、この事業を**共に取り組む企業を募集**いたします。

設立記念を冠する本シンポジウムは、大学の「知」を惜しみなく提供する場であるとともに、社会のニーズを捉え、産学連携で先端技術を社会実装し地域で起業することや様々な事業を創生する企業や企業団体の組織構築を目的としています。

### 連絡先 Contact information

[お問合せ全般]

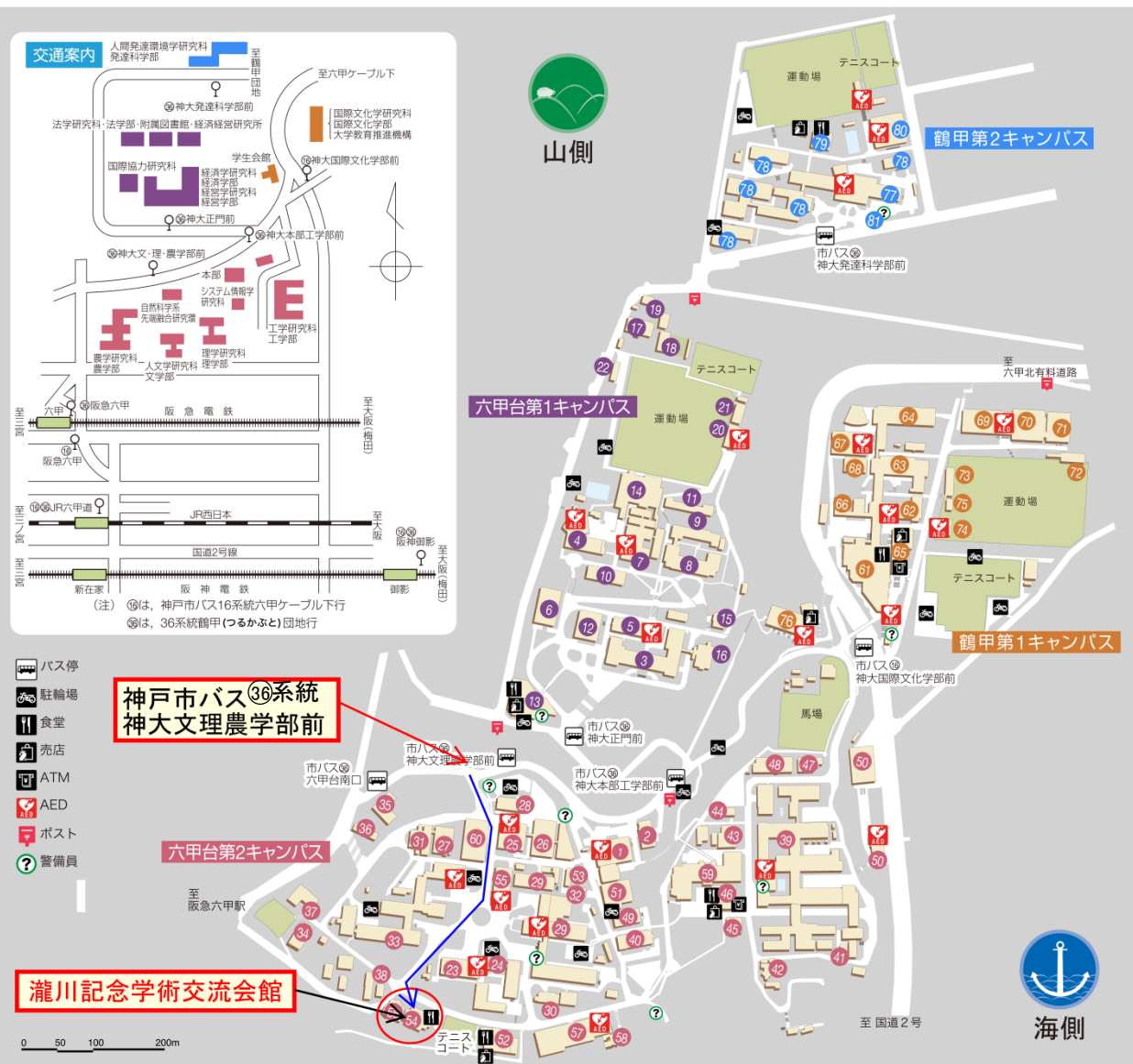
神戸大学  
学術・産業イノベーション創造本部  
TEL 078-803-5945

[シンポジウム内容、技術に関するお問合せ]

一般社団法人SSCA2.0  
事務局(大化物流開発)  
TEL 06-6655-0356 担当:吉川、松田

### 神戸大学キャンパスマップ

六甲台地区 六甲台第1キャンパス 六甲台第2キャンパス 鶴甲第1キャンパス 鶴甲第2キャンパス  
事務局、図書館、各研究科・学部(医学研究科・医学部医学科、保健学研究科・医学部保健学科、海事科学研究科・海事科学部を除く)、研究所等



継続するビジネスチャンスを神戸大学と共に

# 未来都市 神戸の創造



超スマート社会のイメージ

必要なもの・サービスを、必要な人に、必要な時に、必要なだけ提供し、社会の様々なニーズにきめ細やかに対応でき、あらゆる人が質の高いサービスを受けられ、年齢、性別、地域、言語といった様々な制約を乗り越え、活き活きと快適に暮らすことのできる社会

## 第 1 回

未来都市の在り方を考える

人工知能が繋ぐ価値創生と効率革新

開催日 2016年10月27日 14:00~17:45 (受付13:30~)

場 所 神戸大学 瀧川記念学術交流会館2階 大会議室

主 催 神戸大学  
共 催 SSCA2.0(一般社団法人)  
後 援 神戸市

## 未来都市の在り方を考える

### — 人工知能が繋ぐ価値創生と効率革新 —

未来都市を考えるにあたって、そこでのエネルギーインフラ等の効率化は、単なる低炭素化や地球温暖化対策に留まらず、限られたリソースのもとで新奇な価値を創生する活動にとっても本質的な問題となります。すなわち、都市を構成するインフラや企業、市民、行政、さらには都市で営まれる活動から創発する機能・サービスや価値をサイバー空間で有機的に結合し、持続的に進化・成長し続ける仕組み作りが肝要となります。

本シンポジウムでは、このような価値と効率の共創のための仕組み実現に向けての人工知能アプローチならびにその可能性について議論したいと思います。

# System Informatics Smart Community

14:00 ~ 17:45

## 第一部 【講演】

【神戸大学 瀧川記念学術交流会館2階 大会議室】

- 開催挨拶 神戸大学 研究・産学連携担当理事 小川 真人  
神戸市企画調整局 公民連携/大学連携/地域活性化担当 稲松部長
- 講演 4名の講演者による講演
- テーブル 講演者と参加者によるパネルディスカッション
- 閉会挨拶 神戸大学 副学長 小田 啓二

18:00 ~ 19:30

## 第二部 【懇親会】

【神戸大学 瀧川記念学術交流会館1階 食堂】

- ご挨拶 神戸大学 副学長 片岡 徹
- 懇親会

## エネルギー需給最適化と人工知能アプローチ

### — サーマルグリッドを例として —

玉置 久 (神戸大学大学院システム情報学研究科)

ICT やセンサ技術、制御技術の進展により、時間や空間を超えた人と人、モノとモノ、人とモノの間の繋がりが容易かつ安価になったことは現代の技術の大きな特徴である。しかしながら、ICT 技術等を駆使して単に繋げるだけのシステム化のみでは不十分であり、これを真に価値あるものとするためには、システム全体の論理構造等を踏まえた高度な制御・運用システムが不可欠となる。本講演では、建物群や街区での熱融通システム (サーマルグリッド) を対象として、学習・進化する制御・運用システム実現に向けた人工アプローチを紹介するとともに、その可能性・将来性について議論する。

## スマートシティのサービス考

### — システム情報学的なモデリングを通して —

中村 匡秀 (神戸大学大学院システム情報学研究科)

現在スマートシティの研究・開発は全世界に広がり、様々な技術やサービスの開発がしのぎを削っている。しかし、現状の取り組みは、世界的な標準化や共通の知識体系がないまま、各都市で独立して試行錯誤的に行われている。本講演では、各都市の抱える問題や個別の技術に依らず、スマートシティとそこで実行されるサービスを、システム情報学の観点から抽象的にとらえるモデリングの方法を紹介する。その上で、既存サービスの分析や新規サービスのアイデア創出に関するディスカッションを行う。

## 価値共創都市を目指して

### — オープンイノベーションによるアプローチ —

藤井 信忠 (神戸大学大学院システム情報学研究科)

複雑化する社会環境においては、企業や市民、行政が単独で事業・活動を継続し価値を産み出し続けることが困難であり、オープンな環境で、様々な活動主体とともに価値を創出する価値共創都市を目指す必要がある。本講演では、オープンイノベーション手法の一つであるアイデアソンと、神戸市のオープンデータを用いた World Data Viz Challenge 2016 に関する取り組みを紹介するとともに、価値共創都市について議論する。

## 都心・三宮の再整備計画

### — 未来都市の創造に向けて —

若林 宏幸 (神戸市住宅都市局都心三宮再整備課)

神戸市は、阪神・淡路大震災から20年を経過し新たなステージを歩み始めた。日本だけでなく世界に貢献できる都市として発展していくために、平成27年9月に神戸の都心の未来の姿 [将来ビジョン] 及び三宮周辺地区の『再整備基本構想』を策定した。現在、その実現に向けて、官民が協働で取り組みを始めている。本講演では、神戸の都心のまちづくりを進める具体的な方策として、例えば産業の面ではビックデータ・オープンデータの利活用、環境・エネルギーの面では電気・熱融通システムの導入など、様々な施策を紹介する。

## パネラー & ファシリテーター

鈴木 義康 (日建設計総合研究所 上席研究員)  
佐伯 昌彦 (ダイダシ 開発技術本部 環境技術部 部長)  
入江 徹 (大化物流開発合同会社 社長)  
早川 慶朗 ・ 磯崎 日出雄 ・ 長廣 剛 (SSCA2.0)

テーブルディスカッションでは、各テーマに沿ってパネラーと講演者参加者の活発なディスカッションを行います。